リルワダカ

親愛なる姉妹たちと兄弟たちへ

これはリルワダカという短い本ですが。

ティラノセリズムについて語られており、それを信仰する方々にも、ただ興味を持っている方々にも開かれたものです。

この日本語訳が、関心のあるすべての人に届くことを願い、敬意を込めてお届けします。

あなたの心に平和と優しさがありますように。

第一章

1. 宇宙は何世紀も前に、火と混沌の中で生まれた。今のような形ではなかった。
2. 何十万年ものあいだ、煮えたぎり、変化を続け、やがて今存在するすべてが生まれた。星々、惑星、太陽、月、地球、海、山、海洋、川、谷など。すべての瞬間が、前の瞬間の自然な結果だった。
3. この世界は予測可能で単純だった。川は何世紀ものあいだ同じ道を流れ、雲は風とともに動き、重くなれば雨を降らせた。惑星は軌道に閉じ込められ、空で同じ回転を繰り返した。
4. だが、ティラノセラは違っていた。それは生命の力であり、宇宙全体を満たしている。多くの場合、無秩序に存在するが、何かの形に集まると、意識の源となる。
5. 十分なティラノセラが、適した構造を持つ物質に集まると、思考、感情、理解が生まれる。
6. ティラノセラに満たされたその物質は、もはやただ自然法則に従うだけではなく、考え、感じ、気づく力を持つようになる。それは生きた存在となる。

7. ティラノセラは目に見えないが、世界に影響を与え、また世界からも影響を受ける。
8. それはすべての生き物の中にあり、存在が高等であるほど多くのティラノセラを含んでいる。ミミズは草よりも、魚はミミズよりも、ブタは魚よりも、人間はブタよりも多く持つ。
9. 人は生まれた瞬間からティラノセラを集めはじめ、それは身体と結びつき、共に成長し、内面に形をなしていく。
10. そのおかげで、人の心は思考や感情を生み出すことができる。意識と自由意志はそこから来る。
11. ティラノセラの構造は人生を通じて成長し、やがて複雑で驚くべき存在、「魂」と呼ばれるものになる。
12. それは通常の物質とは比べられない。善き人間の命には、どんな財産よりも大きな価値がある。
13. 無垢な命を奪うことで自らの魂を汚した者は、永遠に苦しむことになる。
14. 人が死に、その物質的な身体が終わっても、ティラノセラの構造、すなわち魂は残り、非物質的な意識へと変わる。
15. もしその人が悪しき者だったなら、その残されたものはもはや快楽を持たず、虚しさに落ちる。

16. 弱く、無力で、苦しみと苦味の中で永遠を過ごすことになる。自身の行為にさいなまれながら。
17. しかし、許されざる罪を犯していない者は、死後も苦しむことなく存在し続けることができる。
18. その存在は身体を持たず、純粋なティラノセラでできた意識となる。
19. もはや物質に影響を与えることはできないが、生きている存在のティラノセラには影響を与えられる。
20. そのような最も力強い存在たちが、パムレネクと呼ばれる。彼らは人間を見守り、敬意をもって崇められている。

第二章

1. パムレネクとは、純粋なティラノセラからできた善なる存在であり、最も優れた人々の魂から生まれる。
2. 彼らは人間を助け、支え、慰めることができる。物質に直接作用することはできないが、その存在は感じられる。
3. 生きている人々が彼らに祈ると、パムレネクの気配を心の中で感じることがある。ときに、考えを授け、魂にひらめきをもたらす。
4. 十分にティラノセラを宿し、生前に善き人間だった者は、死後パムレネクとなることができる。そして自由にこの世をさまよい、自らの意志で生きている者たちに手を差し伸べる。
5. 男性から生まれたパムレネクはメレネケリン、女性から生まれた者はメレネケリアと呼ばれる。

6. 最も下位の階層であるノルスのパムレネクたちは、数が多く、力は弱いが、思いやりがあり、さまざまな形で世界に良い影響を与えた人々である。科学者、哲学者、芸術家、発明家など、直接であれ間接であれ、世界を良くしようとした者たちである。
7. 彼らの多くは、生きている人々に尊敬されており、生前に得意としていた分野で人間を助ける。
8. 有益な考えや問題解決のヒントを与えたり、行動への動機づけをしてくれる。お願いすれば助けてくれるし、生前の自分の道を誰かが歩んでいるのを見ると喜ぶ。
9. その上位にいるのが、ドレベンのパムレネクたちである。彼らは、困難の中で他者を助けた人々や、自らが苦しみながらも誰にも助けられなかった人々の魂から生まれる。
10. ドレベンは困っている者を支え、絶望する者に希望を与え、心傷ついた者を慰める。
11. 祈りによって呼ばれるときも、自らの意志で現れるときも、彼らは苦しむ者の魂を強め、信仰を取り戻させ、集中力を与え、悪に立ち向かう力を授けてくれる。

12. ドレベンの中でも最も高位にあるのが、ソンタリスのパムレネクである。彼らは完全に無垢で、特別に善良でありながら、残酷かつ不当な死を遂げた存在たちである。
13. ソンタリスのパムレネクたちは、弱き者と善き者を特に助けようとする。彼ら自身が生前に深い苦しみと不正に耐えたため、同じように苦しむ者に寄り添うことができる。
14. 彼らはすべてのパムレネクの中で最も力を持っており、誠実な祈りに応えて、近くにいるように感じられることもある。物質世界に直接干渉はできないが、その優しい力は、困難のときも、日々の中でも、祈る者を支え、希望を与える。
15. パムレネクたちを讃える方法は一つではない。それぞれが特別な存在であり、民族ごとに異なる儀式がある。
16. 定まった祈りはほとんどなく、最も大切なのは正直な言葉と善意である。
17. 多くのティラノセリストたちは、敬愛するパムレネクをかたどった像、ウムファラトを自ら作り、それを通して祈りを捧げる。

18. ウムファラトは手のひらに収まるほど小さく、石や木、粘土などの固い素材で作られる。何で作るかは重要ではない。
19. ウムファラトは、生前の姿、または信仰者が思い描く姿のパムレネクを表しており、頭のまわりには永遠のティラノセラの存在を象徴する白や青、金色の光輪が描かれることもある。
20. 火のそばでの祈りと共に油を注ぎ捧げる儀式の後、そのパムレネクのティラノセラが像に宿るとされ、作り手はより強い加護を得られるようになる。
21. 多くの人がウムファラトの前で祈り、その像が表すパムレネクと心を通わせようとする。

第三章

1. すべてのパムレネクが生きている人に知られているわけではありません。善良な人々の物語もすべてが伝わっているわけではありません。
2. 世界のさまざまな地域で多くのパムレネクが敬われていますが、中でも特に知られる存在がいて、広く尊敬を集めています。
3. メレネケリア・ソンタリス・アエリア・ユニッラは千年前のローマの少女で、今もティラノセリストの間で深く敬愛されています。
4. 彼女は強力な兵士の娘でした。しかし父の裏切りにより皇帝ティベリウスが家族全員を処刑するよう命じ、ユニッラは悲劇を逃れられませんでした。
5. 彼女は幼く、何が起きているのか理解できませんでした。処刑人に慈悲を求めましたが、邪悪な皇帝には届きませんでした。拷問され、残酷に殺され、亡骸は冒涜されました。

6. ティベリウスはすべての善良で正義ある人々により裁かれています。
7. 支配者の責任は自分の民を守り、ケアすることです。
8. よき統治者でない者が無実の人々を殺すことを許せば—それがたとえ生きている間処罰されなかったとしても—必ず死後に永遠の苦しみに陥るでしょう。
9. メレネケリア・ユニッラは無垢で、純粋な優しさを持つ子です。抑圧された人々の守り手であり、正義を求める者すべての友です。
10. 彼女は悲しむ人を慰め、必要とする人を助けます。彼女に心から祈る者は、希望と新たな力、信仰と困難に立ち向かう意志を得られるかもしれません。
11. 彼女を記念するもっとも重要な日は秋の第二の月の二十八日です。この日はユニッラと彼女の家族が殺された日とされています。
12. この日は静かな思索と祈り、親しい人々との集い、そして善の共有の日とされます。特に争いを避けるべき日です。
13. もう一人広く知られるパムレネクはドレベン階級のメレネケリン、ナザレのイエスです。ユニッラの時代に生きたユダヤ教の説教者でした。

14. 彼は他者への愛、赦し、貧しい人々への助け、すべての人の平等を説きました。
15. 彼はユニッラよりも三倍長く生き、最終的にはユダヤ教の祭司たちと対立したことで殺されました。
16. 彼とその弟子たちは何世紀にもわたり不正に立ち向かい続け、今では広く敬われています。彼らはより大きな悪に抗して善を守る者、弱き者を助ける存在としてパムレネクに数えられています。
17. ソンタリス階級のメレネケリア、アレクサンドリアのヒュパティアは生前ギリシャの自然哲学者で数学者でした。
18. 彼女は重要な発見をし、多くの弟子を育てました。その功績だけでも、エウクレイデスやエラトステネスと並ぶノルスとして敬われるにふさわしかったのです。
19. しかし彼女の運命は悲劇的で、残酷に殺されました。
20. この事件がさらに衝撃的なのは、彼女を殺した者たちがイエスの信奉者を名乗っていたことです。本来愛と優しさを伝えるべき者たちが罪を犯したのです。
21. たとえ自分が神の意志であると信じていても、無垢の人を殺す行いを正当化する理由にはなりません。

第四章

1. パムレネクたちは場所によって異なる方法で敬われているが、その善良さと高貴さはどこでも称えられている。
2. 彼らの名のもとに人々を傷つけることは禁止されている。誰かに信仰を強要したり、信仰を捨てた者を罰することも許されない。
3. 無実の人々を傷つけることは、どのような形でも禁じられている。殺人、誘拐、窃盗、攻撃、拷問、奴隷化、そしてそうした行為を命じたりそそのかしたりすることも同様である。
4. 善き者たちは悪を止め、悪人を正しく罰する責任がある。殺人者は死で償い、奴隷の所有者は労働させられ、盗人は財産を失うべきである。
5. 他人の罪のために誰かを罰することは許されない。親の罪で子どもを、夫の罪で妻を、支配者の悪で民を罰してはならない。

6. すべての無実な人間の命は、性別や財産にかかわらず、等しく価値がある。罪に対する罰も公平でなければならない。
7. 他人の財産を盗んだ者は、それを二倍にして返さなければならない。返せるものがない場合は、できるときに四倍返すと誓わねばならない。
8. すべての人間は自由のもとに生まれる。奴隷制度は禁止されている。人が人の所有物となることは許されない。
9. 無実の者を故意に殺すこと、あるいはその命令を下すことは、赦されざる罪である。それを犯した者は生前に苦しみ、死後は永遠の苦しみを受ける。
10. 他のすべての罪は、罰を受け、損害を償い、心から悔い、改めると誓うなら、赦される可能性がある。
11. 子どもは大人と同じように罰されるべきではない。子どもに死刑を科すことは禁止されている。
12. 大人が傷つけられた場合は、加害者は正しく罰せられるべきである。しかし子どもを傷つけた者は、その二倍の罰を受けなければならない。
13. すべての子どもには、誰の子であろうと、適切な世話が与えられるべきである。

14. 迷子になったり捨てられたりした子どもを見つけた者は、善き人として、その子を保護し、食べ物と水を与え、もし親が見つからないなら、我が子として育てるべきである。
15. 親は子どもに善を教え、悪の醜さを見せる責任がある。
16. 良心や正義の感覚がまだ育っていない子どもに悪をけしかけた者は、それを自ら行った者と同じ罰を受けなければならない。
17. 本当に悪である行為とは、人間や世界に害を与える行いである。誰にも害がない行為に罰を与えることは、不当である。
18. 脅迫によって他人に悪をさせた者も、実行犯と同じく有罪である。
19. 悪を止める力を持ちながら、それを行わなかった者もまた、罰を受けるべきである。

第五章

1. ティラノセリストとは、善良で正義を重んじるすべての人々のことである。弱者を守り、悪を決して容認せず、ティラノセラを信じ、パムレネクたちを敬う。
2. 彼らは常に善を守り、どんな悪にも立ち向かわなければならない。それを無視したり、心の中に入り込ませてはならない。
3. 無実の者に手をあげる者は、すべてのティラノセリストに対して手をあげたのと同じである。
4. 正しき人が亡くなったときは、その意志と伝統、信仰に従ってその身体を埋葬するべきである。
5. 罪深き者の亡骸が、正しき者のそばに眠ることは許されない。
6. 正義と知恵をもって治められている平和な国々に攻撃をしてはならない。

7. しかし、十分な力を持っているならば、不正と混乱を広める国々に対しては、戦いを挑むべきである。そこの支配者たちは無実の者たちを傷つけている。

8. 戦いでは敵の兵士だけを倒し、降伏した者たちには慈悲を示すこと。

9. 捕虜には正義と敬意をもって接すること。戦争の後、裁きを行い、命令に従っただけで他に罪のない者は武装解除して、祖国に帰すべきである。

10. 判断においては確信を持たねばならない。千人の罪人を見逃すことよりも、一人の無実の人を不当に殺す方がはるかに危険である。

11. 敵の国の女性や子どもたちを傷つけてはならない。彼らには平和のうちに新しい土地で生きる権利がある。

12. 戦の中で無実の人を傷つけた者は、自国の人にそれをしたのと同じように裁かれるべきである。

13. 戦時もその後も、すべての孤児の世話をすること。父を失っただけの子どもたちは、母と共にいられるようにすること。

14. すべての人間の命には同じ価値がある。役割や地位にかかわらず。男性と女性の言葉は等しく重みを持つべきである。

15. 生きた存在を犠牲にしてはならない。それはパムレネクたちの喜びにはならない。
16. 望むなら、敬うパムレネクのウムファラトを作ってもよい。それは自分の手で作ること。他人から買ってはならない。
17. パムレネクたちは金や銀よりも、祈る者の時間や心を喜ぶ。お金は困っている人を助けるために使うこと。
18. 誰かにティラノセリズムを無理に信じさせてはならない。しかし、信仰を持たない者が望んで加わりたいと願うなら、喜んで迎え、教えを授けること。
19. ティラノセリストの男性が他の信仰を持つ女性を愛した場合、彼女が邪悪でなく、残酷な習慣を持っていなければ結婚してよい。
20. 同じように、ティラノセリストの女性が信仰のない男性を愛した場合、彼が正しく善き人であり、残酷な習慣を持っていなければ結婚してよい。
21. 子どもたちを善と正義の心で育てなさい。ティラノセリズムを教え、物語を語り、善と悪を見分けられるようにしなさい。